

第1回 日本漢字能力検定 試験問題

氏名

Blank box for name

準1級

解答は、現代仮名遣いによるものとする。

解答は別紙(答案用紙)に書くこと。

(一) 次の傍線部分の読みをひらがなで記せ。(30)
1~20は音読み、21~30は訓読みである。

- 1 裏山の残鶯の声に感懐を催す。
2 播種を終えて刈穫の秋を待つ。
3 野天の湯に浸って翠黛を眺める。
4 古代紫の綾子の被布を羽織る。
5 主上の優渥なるお言葉に恐悦する。
6 坤軸を砕くが如き雪崩に怖れ戦いた。
7 やがて衿契を為すに至った。
8 晩年はひたすら浄土を欣求した。
9 飛蟻が揖揖として空を覆う。
10 而立を前に蚤世した。
11 余所者に不寛容な町の人を厭悪する。
12 肇国の祖として故地に祭られている。
13 真相が掩蔽される結果になった。
14 紅蓮の炎が天を焦がす。
15 隣町に妾宅を構えていた。
16 坐する如来が赫灼たる光明を放つ。
17 完成に三十年乃至四十年を要する。
18 野の鳥獸を尽く馴服せしむ。
19 葱白は風寒を発散すと言えり。
20 法は必ず行い窪隆すべからざるなり。
21 峠には大梅が剣の如くに立つ。
22 日の暮れまでには凧くであるう。
23 城跡で轡虫が盛んに鳴いている。
24 学問を曲げて世に阿った。
25 孫娘に鶉色のリボンがよく似合う。
26 閏七月の残暑には参った。
27 庚申の季秋、空に妖星が現れた。
28 天地変化して草木蕃る。
29 紛々たる軽薄何ぞ数うるを須いん。
30 若草の孀なき君が田に立ち疲る。

(二) 次の傍線部分は常用漢字である。その表外の読みをひらがなで記せ。(10)

- 1 藪に集く虫の音を心待ちにする。
2 原本と具に校べて異同を確かめる。
3 土地に縛りつけ剩え重税を課する。
4 王墓を発いて副葬品を持ち去る。
5 内心大いに負むところがある。
6 奥の間に神棚を設えて齋き奉る。
7 左右の和歌を番えて優劣を判じる。
8 濃やかな心配りに感じ入った。
9 投げを喰らって強か肩を打った。
10 紅葉の散り敷いた石の階を上る。

(三) 次の熟語の読み(音読み)と、その語義にふさわしい訓読みを送りがなに注意してひらがなで記せ。(10)

〈例〉健勝……勝れる ↓ けんしょうすぐ

- ア 1 饗応…… 2 饗す
イ 3 穎悟…… 4 穎れる
ウ 5 蔓纏…… 6 纏わる
エ 7 鍾愛…… 8 鍾める
オ 9 遠猷…… 10 猷る

(四) 次の各組の二文の( )には共通する漢字が入る。その読みを後の□から選び、常用漢字(一字)で記せ。(10)

- 1 向(1)の候御健勝の事と存じ奉り候。凶悪な事件が相次ぎ(1)心に堪えぬ。
2 苦(2)に耐えかねて脱走した。牛と馬が主たる(2)畜だった。
3 (3)上人宛らに近寄り難くなった。敵兵が(3)霞の如く押し寄せた。
4 墜落現場は酸(4)を極めた。柔術の(4)祖と仰がれる人物である。
5 斯界の(5)達に多大の学恩を被った。長い間(5)入主に捉われていた。
うん・えき・か・かん
しょ・せん・てん・び

(五) 次の傍線部分のカタカナを漢字で記せ。(40)

- 1 敵をカクランする戦法に出る。
2 僧が市中をタクハツして回る。
3 ダイタイコツが折れる重傷を負った。
4 代役を立てて急場をシノいだ。
5 ビワの実を小鳥が啄んでいる。
6 会長選の候補者がデソロった。
7 夜半の都大路にサえた笛の音が響く。
8 シノツく雨の下で農作業を続ける。
9 あんなユウギに厚い男は他にいない。
10 チヨコザイな若造を軽くあしらう。
11 使った油をフィルターでコす。
12 社長に成功へのヨウケツを伺う。
13 最後ツウチヨウをつき付けられた。
14 堂々たるタイクの選手を手玉にとる。
15 肝腎要の問題をトウカンシしていた。
16 道路が線路をマタイでいる。
17 地震でビルが大きくカシいだ。
18 米をカシいで大量の握り飯をつくる。
19 古代ローマが全欧州をセツケンした。
20 セツケンの泡立ちがよくない。

準1級

解答欄を間違えないよう設問番号を確認してください。

氏名

(六) 次の各文にまちがって使われている同じ音訓の漢字が一字ある。上に誤字を、下に正しい漢字を記せ。

- 1 既に視呼の間に逼る頂に向かい鎌の刃の如く鋭利な稜線を歩一歩進んだ。
2 軍の機密が漏衛した事件の背後に某国諜報員の暗躍があつたと噂される。
3 蟻の這い出る隙もない警備を掻い潜り帰還し得たのは天裕と言う他ない。
4 竈や囲呂裏、行灯や蠟燭を用いた昔の家屋は煤払いが必須の行事だった。
5 古代史研究で比隣を絶する業績を持つ稀代の碩学に紫綬褒章が贈られた。

(七) 次の問1と問2の四字熟語について答えよ。(30)

問1 次の四字熟語の(1~10)に入る適切な語を後の□から選び漢字二字で記せ。(20)
(1) 曲筆 生死(6)
(2) 昇天 沈魚(7)
(3) 舜木 前途(8)
(4) 奮迅 羊頭(9)
(5) 神工 溫柔(10)

問2 次の1~5の解説・意味にあてはまる四字熟語を後の□から選び、その傍線部分だけの読みをひらがなで記せ。(10)
1 器の大きさが欠点を目立たせない。
2 才徳を目立たせせず世間に溶け込む。
3 永遠の誓い。
4 あつという間。
5 頭抜けた詩文の才能。

- 社燕秋鴻・紫電一閃・河山帶礪
和光同塵・金烏玉兔・山藪藏疾
七步八叉・吟風弄月

(八) 次の1~5の対義語、6~10の類義語を後の□の中から選び、漢字で記せ。□の中の語は一度だけ使うこと。

対義語 類義語
1 明瞭 6 遭遇
2 強靱 7 浅膚
3 栄華 8 出版
4 碇泊 9 尽日
5 接着 10 未明

しゆくや・じようし・ぜいじやく
ちようらく・はくり・ぱつびよう
ひそう・ほうちやく・まいそう
もい

(九) 次の故事・成語・諺のカタカナの部分を選択して漢字で記せ。(20)

- 1 猫もシャクシも。
2 百年カセイを俟つ。
3 權は三年、口は三月。
4 カコウ有りといえども食らわずんばその旨きを知らず。
5 陰徳あればヨウホウあり。
6 児孫の為にビデンを買わず。
7 鐘もシュモクの当たり柄。
8 一斑を見てゼンピヨウを卜す。
9 ホシヤ相依る。
10 天網カイカイ疎にして漏らさず。

(十) 文章中の傍線(1~5)のカタカナを漢字に直し、波線(ア~コ)の漢字の読みをひらがなで記せ。(20)

A 私の旅はほぼ日程の通りに捗った。四日目は道の峻しさも苦しさも押し通してしまつたが、ほんとうに参つたのはあの三の公谷へ這入った時であつた。尤も彼処へかかる前から「あの谷はえらい処です」と人に云われたので、私も予め覚悟はしていた。木深い杉林の中に、纒かにそれと人の足跡を「タドれるくらいな筋が附いているだけである。おまけに前夜降雨があつて、二の股川の水嵩が俄かに殖え、激流の逆まく岩の上を飛び飛びに、時には四つ這いに這わないと越えることが出来ない。それから河原をトシヨウして、最後に三の公川に達するまで、向こうの崖から此方の崖へ丸太を渡したり、棧を打った板を懸けたり、それらの丸太や板を宙で繋ぎ合はして、崖の横腹を幾曲がりもウカイしたりしている。(谷崎潤一郎「吉野葛」より)

B 凡そ一政団中に居る者は、其の団体を以て郷土と為し家眷と為し性命と為し、終始我が団体の一物のみ眼前に游揚しキヨウリに横陳し其の団体外の団体を見るに於いて何と無く他国の思いを為し、甚だしきは或いは敵人の思いを為すことは、亦人情の免れざる所なり。左れば、我が廟堂諸公の心地如何に公明なればとて其の議士を視るや敵人と迄には到らざるも或いは五月蠅き奴位の意念は必ずしも萌起せざるとは謂う可からず。夫此の一意念たるや深く畏るるに足らざるに似たり。然れども、推究し去り詮考し来るときは、其の本源は彼政団と称する一個の体中より分泌し来れるに外ならざるなり。蓋し其の心必ず言わん、「我我が職に居り我が務めを履み我が学殖を繰り出し我が経験を担ぎ込み、以て此の一案を造れり。彼代議士敢えて一場の弁を以て之を打破せんと欲す」と。此は是、古今行政官なる政団の中に居る者が、往々其の明を蔽われ其の聡を塞がるる政界の浮雲にして、釈迦・コウキウ・耶穌と雖も立憲国の行政官たらしめば或いは免れざる所なり。(中江兆民「警世放言」より)